

5.22/中核派政治集会に結集せよ!

とき 5月22日午後5時半 ところ 大阪市立桜宮公会堂(京橋下車西へ)

反戦会議アピール || 前進を読もう

全ての学友諸君!

4.28沖縄選挙大斗争の爆発と5月カンボジア侵略に反対する米-日人民の反戦斗争の高揚は、今やアジアに於ける米-日帝国主義の侵略、強盗的なむき出しの本質を満天下に明らかにした。特にこの間のカンボジアをめぐるニクソンの強行的な米軍侵略政策と傀儡殺りく政府ロ-ノ-ルー派に対する軍事介入はとりも直さず、今日アジア植民地体制の全面的な破綻にみまわれ、追い詰められた米帝の死のあがきを示すものである。北トナムを決定的導火線とするアジア危機の激化的拡大は米帝をしてますます侵略と殺りくの死の泥沼に引きずり込み、一切の退命の道をアジア人民の抑圧と侵略戦争に存亡を賭ける危機的窮地に追い込んでいる。まさしく米帝にとってはアジアは死の生命線である。特に、米帝の今日的な侵略政策の破産はアジアのみならず、国内的にも、このカンボジアへの侵略拡大政策に対する反戦運動は、全米的な異常な大爆発を巻き起こし、今や米国内は物凄い反政府運動で荒れ狂っている。ケンタッキー大学の反戦学生4名の虐殺、更に続く黒人虐殺の激化的な血塗ったニクソンの弾圧政策は一般市民までもを反政府側の立場に立たせている。

一方日帝は昨秋の「日米共同声明」によって明確に、アジア侵略と抑圧の共犯者として「侵略宣言」を詠うことによって、はっきりアジア人民に敵対することをおきちがにした。

今日のカンボジア侵略に対する積極的なテコ入れであるカンボジア参戦国会議=アジア侵略会議への佐ト政府の参加は、まさしく日帝がワシントンでニクソンととりかゆした侵略強固同盟の盟約を早速開始したものに他ならない。日帝のカンボジア参戦国会議への積極的参加は明らかに新たな侵略政策の画策をなす露骨な侵略と殺りくを全面に押し出す一それ故に、プロレタリア人民への全面的対決を強調とする段階に達したものとみこころおはならない!

沖縄では侵略基地化の正体をますますバクロし、今やアジア危機が深化するなかで沖縄の永久侵略基地化への固定化は強まりこそすれ決して弱まりはしないのである。特に北トナム-ラオス-カンボジアへの危機拡大と迫り来る朝鮮危機の到来は、米帝-日帝をして侵

略侵略の和策を一時的に促進せしめる条件となっている。

4.28斗争から5月カンボジア-6月安保決戦への革命的左翼の任務は世界史的大転回を巻き起こす歴史的使命をもっている。帝制主義の排外主義「テオロギー」攻撃は社共を始め、革マル、ML派、民学同を始めとして一切の諸党派の本質をリトマス紙にかけ、排外主義へ転落せしめ帝国主義の侵略の道を掃き清めようとしている。6月安保決戦を目前にひかえ、中核派を軸とした大統一戦線に下る強化と、それに対する大衆の圧倒的結集、つまり革命派の強化こそが今こそ要請されているのである。

特に沖縄斗争から諸党派が完全に召還し、敵対する中で、支配者のパチン的な「72年沖縄返還」論の反人民的な策動を断固政治的にバクロし、佐ト帝国主義政府の沖縄政策をズラスタに引き裂くことによって、完全に帝国主義者の沖縄を軸とする安保政策-日米共同防衛体制を破綻せしめねばならない。

6月安保決戦に向けての斗争の方向は、まさに白ヘル労働者、学生、高校生を中心とした全国反戦、全国全共闘などの大統一戦線の形成を駆使することによってプロレタリア大衆と革命派の路線の下に結集せしめ、我々がはっきりと階級斗争全体の公認指針部として登りつめることによって、党-プロレタリア階級の形を断固勝ち取っていかねばならない。

6月安保決戦の大爆発こそ、70-72年階級斗争の未来をはっきりと決定づける。一切の斗争の力ぜはもとえに、革命派のヘゲモニーの確定による6月安保決戦の全国的な爆発-この一矢がすべてである!

学習会

時間-毎週水曜日午後3時

場所-反戦会議BOX

テキスト-「ド・イデ」 「なにをなすべきか」

主催-マルクス主義研究会